



3DCGのプラットフォームは選びません!

超速変形ジャイロゼッターやドラゴンクエストモンスターバトルロードシリーズの3DCGを制作



「3次元コンピューターグラフィックス(3DCG)」に特化したコンテンツ制作を京都で手掛けている 株式会社 界グラフィックスの白波瀬社長にお話を伺いました。

白波瀬 登 社長

京都へのこだわり

取材当日、会議室に案内していただくと大型テレビの前に複数のフィギュアが展示されていました。さすが、3DCGコンテンツ制作会社と思ったのですが、そのフィギュア達はテレビ会議の際にクライアントにポーズや動きを見せるためのモノでした。それというのも、この会社が京都でやっているが故で、こういった3DCG制作会社はクライアントが数多く集まる東京に集中しており、京都で3DCGに特化したコンテンツ制作を手掛けている会社というのはたいへん珍しいのです。

「最近ではテレビ会議システムが整い、すぐに作った映像を見てもらえるのでだいぶ楽になりましたが、それでも月に1、2度は東京に出張します。」と白波瀬社長。CG制作と聞くと、パソコンさえあれば、地方にいてもできるというイメージがありますが、そうでもないようです。

それでもなぜ京都で、という問いに、「いい所ですからね。」というお答えが返ってきました。地元で、特にここ京都で働きたいという若者と一緒にやりたいという信念があり、ずっと京都で頑張っておられます。

社長の白波瀬さんは、もともとKRP(京都リサーチパーク)にあった会社にデザイナーとして就職され主にグラフィックデザインやDTPを手掛けていました。界グラフィックスの設立は1998年。「ちょうどその頃から3Dの需要が急速に増えてきたので、3DCGを仕事にしたら面白いんじゃないかと思い立ち上げました。学生時代に3Dの勉強もやっていて、ずっとやりたいなあーと思っていましたので。1990年代は3Dを使ったゲームが動き始めた頃。その頃からまだ10年ちょっとしかたっていないのに、どんどん新しい技術や3DCGを使用したゲームが出てきており技術の進歩はとても速いというのが実感です」

2010年に現在の五条烏丸のビルにグループ会社で移転。「現在KRPIにはCAFE『YEBISU』が残っています。もともとは仕事で遅くなる若いスタッフの健康のため作ったものですが、



もとは呉服屋さんという社屋：スタイリッシュな暖簾が目印です

さすがに一緒に移転させることはできませんでした。」

3DCGへのこだわり

3DCGというと、映画の特撮やアニメ「カーズ」や「アバター」など、またCMIにも多く使われそちらをイメージする方が多いと思いますが、「弊社では、そういったCGはもちろんですが、ゲームの中でインタラクティブに(ユーザーの指示に応じて)動く3DCG制作を主に手掛けています。3DCG映像をいかに美しく見せるかが弊社の仕事です。最初にプロトタイプを作り、実際に動かしてさわりの具合をイメージします。そして『ああ、これ楽しいね』となると、本格的にその先を作っていきます。ストーリーの提案も必要に応じてしていきます。3DCGの制作は、デザインしたキャラクターなどをコンピューター上でモデリングし、その中で動かせるように作っていきます。ちょうどその様子は、コンピューターの中にカメラが入っているイメージで、実際のカメラの撮影のように動きを作っていきます。こういう演出が



したいので、こんな動きをとか、あらゆるパターンを一つずつ作ってつなげていくのです。

最近制作した3DCGでは『超速変形ジャイロゼッター』があります。自動車がロボットに変身するゲームで、ゲームセンターやアミューズメントスポットに置いてあるキッズカードゲームと言われるものです。

キッズカードゲーム：実際に会議室に置かれていました



100円入るとカードが出てきて、それをスキャンすると描かれているキャラクターが出てきて遊ぶことができます。お気に入りのキャラクターなどが出てくるとうれしいというやつです。カード自体は数百枚以上種類があり、いろんな絵柄のカードが出てきたり、1枚しかないレアなキラキラカードが出てきたりと大人子供関係なく楽しむことができます。このカードのデザインも弊社で制作しました。

ゲーム以外では、企業のプロモーション映像を作っています。新製品の紹介等を3DCGでやってみると、ちょっと目先がかわって面白いですね。これからはタブレット上で自分で動かしながら紹介していくなんてこともできますね]

これからはスマートフォン

今、注目しているのはスマホゲームです。スペックが高くなってきて弊社の得意な3DCGが動かせる環境になってきました。実際いくつか開発中です。

スマホは今までのゲームとは遊び方は全く異なりますが映像を作る上での制作方法は同じです。基本となる3DCG制作のノウハウがあるので、あとはプラットフォームの知識を勉強するだけです。スマホによって性能が異なるので、どこまでだったら快適に動かか、古いスマホの仕様だけではなく、新しいスマホの仕様など研究を繰り返します。

スマホゲームの場合は商品自身の回転が速くて、数か月で作って出していかなければいけません。また、iPhoneとAndroidの両方出していく必要もあります。短時間で遊べ、そしてその一瞬で見せ場を作れるかどうか勝負だと思っています。大変楽しいです。

課題は人材

この業界は人に負うところが大きいので、人材確保が常に頭にあります。人材を育てるのも課題と思っています。

最近の若者はスマホとかゲームが当たり前の中で育っているので、僕らよりもコンピューターに対する知識が多く詳しい人が多いです。いろんな大学や専門学校を回り、先生にお願いしたりしていますが、やはりよさそうな子は大手にとられてしまいます。我が社ならスターになれるって言うんですが、なかなか集まらないのが現状ですね。

我が社の強み

今や3DCGは介護分野で活用されたり、教育現場で使われたり、たとえプラットフォームが変わっても、3DCG自体の需要は増え続けると思います。3DCGの需要がある限り、そのノウハウがあればやっていけると考えています。3DCGのプラットフォームを選ばない。そこが我が社の強みです。

何か面白いと思ってもらえるようなものを作りたいという思いでずーっとやっています。弊社で制作した映像を見て問い合わせを受けることもあり、出来たものの評価を即座に受けるところが大きくやりがいを感じます。評価されないと非常にこわいという面もあるのですが。

夢というとおおげさですが、たとえば映像を見た瞬間、その動きを見た瞬間に「ああ界グラフィックスの作品だ」と思っていたようなものを作りあげていきたいと思っています。



作業風景：どんどん新しい映像が制作されています

(まとめ 企画連携課 門田佳恵)

Company Data	株式会社界グラフィックス
代表取締役／白波瀬 登	
所在地／〒600-8439京都市下京区室町通五条上る坂東屋町267番	
設立／1998年	
資本金／1000万円	
従業員／16名	
事業内容／各種3DCG企画制作	
<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータソフトウェア開発 ・パチンコ／パチスロ企画制作 ・iPhoneアプリ開発 ・電子出版企画制作 	

お問い合わせ先

京都府中小企業技術センター 企画連携課 企画・情報担当 TEL: 075-315-8635 FAX: 075-315-9497 E-mail: kikaku@mtc.pref.kyoto.lg.jp